

お知らせ

愛媛大学医学部附属病院では、医学・医療の発展のために様々な研究を行っています。その中で今回示します以下の研究では、患者さんのカルテの記録や通常の診療で行った検査の結果を使用します。

この研究の内容を詳しく知りたい方や、カルテや検査結果データを利用することにご了解いただけない方は、以下の【お問い合わせ先】までご連絡下さい。

【研究課題名】 希少がんの治療と予後に関する後方視的研究

【研究機関】 愛媛大学医学部附属病院

【研究機関の長】 杉山隆（病院長）

【研究責任者】 薬師神 芳洋（臨床腫瘍学講座 教授）

【研究の目的】

希少がんとは、人口10万人あたり5例以下の稀ながんと定義され、患者数、専門医数、医療機関が少ないため、有効な治療法や標準治療法を確立することが難しいといった問題点があります。また、肉腫や悪性脳腫瘍のように症例数が比較的多い希少がん、10万人あたり1例未満の症例数の少ない希少がんでは、治療や研究にも差があります。一方、200種類近い悪性腫瘍が希少がんに分類され、日本で新規に希少がんと診断される患者は、がん患者全体の約15%にも及びます。そこで本研究では、愛媛大学附属病院にて登録された希少がん患者の病理・病態・治療法・経過・予後等を集計し、当院で診療された患者を対象に予後因子を解析し、希少がんの問題をさらに考察する事を目的とします。

【研究の方法】

(試験デザイン) 後ろ向き(retrospective)コホート試験

対象患者は愛媛大学医学部附属病院において診断された希少癌患者約400例(目標)とします。治療(化学療法、放射線療法、手術療法等)を実施した症例においては、患者の年齢、性別、診断日、診断時の血液検査・病理診断の詳細、発見時のステージ、治療開始日、治療の内容、治療結果、寛解・再発の有無と日時、再発・増悪部位、等についての情報をがん登録の資料ならびに電子カルテから利用します。また、生死、死因、最終確認日での状態等の予後についての調査も行います。以上の情報から、愛媛県内における希少がんに対する予後因子を統計学的に検討します。

なお、患者情報は匿名化され、個人情報に関する情報は一括して愛媛大学医学部臨床腫瘍学講座で管理します。

【個人情報の取り扱い】

収集した情報は名前、住所など患者さんを直接特定できる個人情報を削除いたします。そのため個人特定できるような情報が外に漏れる事はありません。また、研究結果は学術雑誌や学会等で発表される予定ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。

【問い合わせ先】

愛媛大学医学部附属病院腫瘍センター長・愛媛大学医学部臨床腫瘍学講座

薬師神 芳洋

791-0295 愛媛県東温市志津川

Tel:089-960-5969(臨床腫瘍学講座)